

小林議員（自民議連）

平成 29 年 12 月 12 日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) A I, I o T時代の到来を見据えた学校でのモデル事業実施について

A I, I o Tが進行すれば, 教育そのもの, また, 教育現場の在り方も, 変化が出てくるのではと思う。やがては, 10人規模の学校でも, 運営可能な時代が訪れるのではと考える。

そこで, A I, I o T時代の到来を見据え, モデル事業を市町と協議をし, 学校で実施してはどうか。教育長の所見を伺う。

(答)

本県におきましても, 児童生徒の減少が続く中, 特に中山間地域では小中学校の小規模化が進み, 地域コミュニティの衰退が懸念されることから, 各市町の実態に応じた活力ある学校づくりが課題となってきております。

こうした活力ある学校づくりを進める方策の1つとして, 例えば, 小規模校における児童生徒の学びの質の維持・充実という観点から, I C Tを活用した教育の情報化といったようなことが考えられ, 国におきましては, 新たに平成30年度から, 遠隔授業システムを導入するための, 市町への直接の支援を実施することとされているところでございます。

また, 他県の小・中学校におきましては, 離れた学校の教室同士をつなぎ, 合同で授業を行うことによって教育の質の維持・向上を図っている事例などもございます。

教育委員会といたしましては, こうした国や他県の取組について情報提供を行うとともに, 先行事例について, 調査・研究を進め, 県としてどのような支援ができるか検討してまいりたいと考えております。